

避難情報だけでなく、災害につながる地域の前兆現象(例:まずはこの水路から溢れてくる)、そしてそのような危険に前もって気づくための気象情報の双方を活用し、地域住民自らが日常モードから災害モードに切り替えるタイミング(防災スイッチ)と行動を明確にすることで、危険になる前に災害対応に結びつける取り組みを実施。「いつ」という行動タイミングを地域で前もって明確にし、「何を」するか決めておくことにより、判断の遅れや迷いの防止の効果が期待される。また地域住民が普段利用する情報(例:交通情報や買い物情報)に、地域に関する気象情報を加えたポータルサイトを設け、日常的に防災スイッチに関係する気象情報に触れる機会を設けている。



川面地区での取組の様子



防災マップを利用した防災スイッチ探し



防災スイッチを利用した対応行動の確認

防災スイッチで、いつ・何をするかを明確化!!
自分たちの身を自分たちで守るために
前もってみんなで決めた防災スイッチで
行動に移します!!